

3つの検討の視点

- びわこ文化公園都市のあり方をしっかりともう1回見つめ直すのが、この改定案の大きな趣旨。
- 将来世代への責任という明確な命題を挙げた上で、ビジョンとしてまず位置づける。
- 持続可能な社会へ向けた挑戦、そういうニュアンスがいい。
- 成長というよりは、むしろ持続が大事であるので、成長というのは再考する必要がある。

5つの将来像

- もう一つ別建てで、暮らすコミュニティについての将来像がいるのではないか。
- 自治というのが非常に重要なキーワード、それをこの将来像の中に、うまく組み入れていくことが必要。
- 住民を中心として、ここをどうやったらもっと暮らしやすく、移動しやすくできるかということを自分たちの自治の問題として捉えないと、解決することも見えてこない。
- 暮らし、生活、またはコミュニティのような言葉を入れることがまず必要。

取組の方向性【プラットフォーム】

- (移動や情報発信は)5つの将来像という縦軸に対して、横串として優先的に解決すべき課題。
- 2つの横串部分の共通基盤、プラットフォームを適切な形で将来像とは別に位置づける。
- 理解の共有という形で、相互に理解できる、あるいは自分が伝えたいことを発信することができる、そういうプラットフォームを作り出していく方が未来に繋がる。
- 誰でも自由にどこにでも移動できるようにするという、お互いがお互いの理解を共有できるという、この2つを大きく包含するこれらの横串は、今のビジョンにはない良いところ。

支える仕組み

- (仮称)未来創造会議に、自治会の方々も参画できるとか、そこで部会を組んで議論することが必要。
- びわこ文化ゾーンがあることによって、地域の人たちのその暮らしを支えてもらって、自治会の活動に参加しやすい環境をこの中から見出せないか。
- 指標については、もっと夢のあるものであってほしい。
- 将来像に対する取組を可視化するツールとして、NFTやトークンを使えないか。
びわこ文化公園都市全体のトークンの流通量が、全体としての活性化の指標にもなる。
- アウトカム指標は、こうなったらいいなというものを実現していくために、どうすれば良いか考えること。